

第13回 みんなで語ろう！ ~いなむら市長とともに 車座集会~

<テーマ型：公営競技(園田競馬)と園田地区のまちづくり>

と き	平成 25 年 10 月 22 日 (火) 午後 3 時 ~ 4 時 30 分
と ころ	尼崎市立園田地区会館 大会議室
参加者等	参加者 23 人 市長ほか関係者 14 人 合計 37 人

1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明（職員）

2 市長から競馬事業について趣旨説明

資料に基づき、公営競技の目的、園田競馬場の沿革、これまでの実績等について説明。

尼崎市は、「競馬組合の構成団体の一員」と「競馬場が立地する地元市」の両方の立場がある。

売上ピークの平成 3 年以降、地方競馬は低落傾向にあり、兵庫県競馬組合は売上が減少する中で平成 19 年度に「競馬事業の活性化に関する報告書」を公表。その後、平成 22 年度に単年度収支が赤字となり、事業存廃を判断する 5 年間の見極め期間がスタートした。平成 24 年度から競馬事業の活性化策としてナイトー競馬を実施している。

その結果、平成 25 年度の売上は、ほぼ当初予算どおりに推移している。

また、競馬場周辺整備事業として、幹線道路や公園の整備を実施してきた。

これら、競馬事業を取り巻く現状を認識していただき、皆さまの意見を伺いたい。

3 市民と市長との対話

<主な意見>

- ・今回のテーマや狙いがわからない。存続のためなのか、廃止に向けてなのか…。赤字が解消されないならやめるしかないのではないかと。競馬の人気なくなったのはレジャーが多様化したため、中央競馬に比べ地方競馬は元々厳しい。売上はピークの 40% を割っており、配分金もなくなっているのに、まだ続けるのか。テーマについては、存続か廃止かなど決めるものではない。市民の中でも、活性化して続けるべきだという意見と無理だろうという両方の意見がある。今回はいろいろな意見をお聞きしたい。
- ・市はいくらの収益がほしいのか、数字で示してほしい。
- ・地元の立場と市の立場は違う。周辺整備事業は地元への迷惑を補うもののはずだが、住環境にプラスになっていない。地域に見合うものにできないか。
- ・今回、競馬事業について市長が出向き地元で説明したことは評価できる。今回は、競馬事業や周辺地域の状況について情報共有したいと考えている。
- ・財政再建団体直前にまで落ち込むような市がこんな事業をしているのはおかしい。
- ・ナイトーの実施を検討している時のアンケート結果では反対が多かった。競馬の開催日にはたくさ

んのファンが集まって、地域ではいろいろなことが起こったのを知っているか。

- ・もし競馬事業の存廃を検討するための委員会が設置された場合は、メンバーに地域住民が入れるのか。
- ・ナイターが始まってから、街灯の設置や道路の整備などいろいろな対策がとられている。また、ピーク時は5万5,000人もの人が競馬場に来ていたが、現在では3,300人くらいとかなり減っており、ファンのマナーも向上している。さらに、場外発売が増え、インターネットや電話による投票も可能となっており、直接園田競馬場に来なくても馬券が購入できる環境になっている。過去とは状況が大きく変っている。
- ・単年度収支が赤字になったら廃止ということか。
平成22～26年度の単年度収支累計の状況に基づいて、競馬事業の存廃を判断するための第三者機関を立ち上げることになっているが、詳細は未定である。
- ・廃止するには多額の費用が必要だが、現在の内部留保額額を見るとやめるにやめられない状況である。
競馬事業の収益を積み立て県内のまちづくりに使っている基金が県にあり、決定したことでなくあくまで市の考えだが、まずそれを充てるべきだと考えている。
- ・どうせやるなら儲けよう！という考え方もある。
- ・単年度収支が右肩下がりの原因を分析しているのか。特に、平成6年度は大きく落ち込んでいる。平成6年度は阪神淡路大震災による開催中止の影響で落ち込んでいる。
- ・園田地域に住み園田競馬場で働いている人は競馬がなくなったら生きていけない。過去、地元で集会があると毎回廃止の話が出たが、園田競馬により駅前から競馬場までの道路、施設が整備され、街がよくなっている。
- ・競馬ファンが馬券を買うことで収益があり、周辺地域にも貢献していることを忘れないでほしい。
- ・競馬場に働く者としては、常に競馬がなくなるのではないかと心配している。ではあるが、地元園田地区の住民でもある。

以 上